

「道の駅」直売所連携による組織の充実強化

湖北農業農村振興事務所農産普及課

【普及活動のねらい・対象】

湖北地域には11カ所の常設の農産物直売所があります。その中でも中心的な役割を担う「道の駅」4施設(“伊吹の里旬彩の森”、“近江母の郷”、“湖北みずどりステーション”、“塩津海道あぢかまの里”)を対象に相互の連携強化と各直売所の販売拡大を図るため、当課の呼び掛けで「湖北道の駅情報交換会」を定期的を開催しました。

【普及活動の成果】

(1) 情報交換会の開催

情報交換会を各道の駅持ち回りで年5回開催し、各々より取り組みが紹介されました。また、当課では品揃えの強化や組織育成への提案や共通する課題に対する改善提案とコンサルによる現地指導を行いました。

意見交換では、品揃えや品質向上、陳列・表示・包装、生産組織強化等のテーマを設けました。道の駅の運営者や生産者が、各々で抱える課題や生産振興の問題点について、活発な意見が出され、議論がされました。

(2) 共同イベントの開催に向けた誘導

情報交換会や各駅長との打合せの中で“道の駅フェア”の開催や共同パンフレットの作成などを呼び掛けました。その結果、各駅のイベントに併せ、“湖北道の駅フェア”が3回開催され、各々の目玉商品や特産物の販売、パンフレットの配布など、消費者へのPRが図れました。

(3) 各道の駅(運営者、生産組織)への提案

それぞれの運営者や役員会に対して、生産拡大、部会活動、生産・販売戦略策定などの提案、助言を行いました。

その結果、各道の駅で以下のような取り組みが行われました。

近江母の郷：全組合員に対する生産記録の記帳・提出の義務化、専門部会の設立

伊吹の里旬彩の森：ポップ表示、陳列の改善、伊吹大根(目玉商品)の生産拡大

湖北みずどりステーション：専門部会(米、伊ゴ、果樹、花き等8部会)の設立と活動開始

塩津海道あぢかまの里：目玉商品(ジャンボニンニク)のPR(のぼり)と生産拡大

何よりも、道の駅間の競争意識の芽生えや連帯感の強化が、一番の成果だと考えます。



ジャンボニンニクののぼり



伊吹大根はポップで詳しく説明